



財田中本篠より城跡を望む

財田和泉守常久の墓

## もとのじょうあと 本篠城跡 ～二度の落城の中で～

財田町財田中にある市指定史跡『本篠城跡』。この城は阿讃山脈の尾根上、城山の山頂部に位置し、前面には本篠川の流れを取り入れることで、交通の要路であるとともに天険の地として知られました。

現在は山頂付近に曲輪と呼ばれる平坦部や空堀などが残っていますが、周辺に畑が広がる静かな一帯となっています。しかし、この城は二度の戦乱の中で落城の憂き目に遭ったと言われています。

一度目は南北朝の争乱期で、財田城という城が、讃岐における南朝方の牙城として一大拠点となりましたが、北朝方の猛攻を受けて落城しました。この城が本篠城のことだと推定されています。

二度目は戦国時代末期で、ちょうそかべもとちか長宗我部元親の讃岐侵攻の際にこれに抗して、少ない兵力でよく支えましたが、再び落城の時を迎えました。その際の壮絶な戦いぶりは、江戸時代に書かれた『なんかいつうき南海通記』によりうかがうことができます。

ふもとの登り口の側には城址碑が立ち、付近には、二度目の落城時に城主として戦死を遂げた財田いずみのかみつねひさ和泉守常久の墓(市指定有形文化財)が残っています。

また、その際に城主の伯母たちが身を投げたという『おぼぶち伯母淵』もあり、ひっそりと戦国時代の悲哀を今に伝えています。

登山道は急峻なため、登山の際にはご注意ください。

<生涯学習課>

## 今月の市民力

仁尾八朔人形まつり実行委員会のメンバーは75人、祭りの関係者は総勢500人を超える地域住民がボランティアで参加しています。みんなで手分けして祭りを運営しようとの考えから実行委員会は6つの専門部に分かれて、部会ごとに集まり、今年の祭りの内容を決めます。何度も何度も会を重ねて心が一つになるまで議論を交わし、全員が納得いくまで話し合いは行われていました。皆さんに「来て良かった。また来たい」と思ってもらえるような祭りにしたいという関係者全員の熱意がひしひしと感じられました。

